

法政大学第一高等学校同窓会報

発行所 法政大学第一高等学校同窓会 電話 0422-22-8131(代)
発行人 川城 官エ門 東京都杉並区下高井戸5-7-22
(題字は馬場校長筆) 平成2年3月26日 (月) (第15号)

本会は母校の発展を願う卒業生が相互の親睦をはかり連絡を密にし、互助の実をあげることを目的とする。(規約第2条)

平成元年度 方針とご挨拶

会長 長野村光一



会員の皆様にはご健勝にてご活躍のこと誠にご同慶に存じます。

本年は、昭和から平成へと年号が新しくなり歴史の移り変わりをあらためて感じます。

今、日本は政府の国際収支改善策の内需拡大と円レートの影響等により物価は安定し、産業界は好況を続け、国民の生活は豊かであり、自由で明るいこんなよい社会はないと思います。

しかしこのように順風満帆のようにみえる国内の状況はリクルート事件、消費税導入などによる参院選の結果など流動的なあゆみを示しております。

一方目を世界に転じれば、中近東のイラン・イラク戦争、ソ連の社会主義体制の変化、アメリカとの経済摩擦など目をそむけることの出来ないことが続いています。

吾が同窓会は、このような世の中の動きと流れにかかわらず、学舎を同じくした卒業生の相互の親睦という最も純粋で真実な集りとして永い間にわたってつちかわれてきました。

この永い間には、多くの先輩役員各位のなみなみならぬご尽力があり、そのプロセスを忘却することは出来ません。

最近の同窓会の運営は61年の母校創立50周年記念事業の終結、62年度はその余韻の中で63年度に向けての諸準備、そして63年度は会員総会、懇親会が秋口総会準備委員長のものとその計画と準備により同年11月6日(日)母校において、200余名の多くの会員のご出席を戴き盛況裡に行うことができました。

平成元年度の運営方針につきましては、去る9月27日(水)の役員会において議題となりました次の事項を推進してまいります。

- 平成元年度委員総会の開催
 - 日時 平成元年11月15日(水) 午後6時30分
 - 場所 四谷 主婦会館
 - 会費 3千円

- 議題
 - (1) 会計監査報告について
 - (2) 63年度事業報告並びに収支決算報告について
 - (3) 平成元年度事業計画並びに収支予算案について
 - (4) 平成2年度総会(会員総会、懇親会)の開催について
 - (5) 任期満了に伴う役員改選について
 - (6) 同窓会会報の発刊について(第15号)
 - (7) 会員名簿のコンピュータ化検討促進について
 - 総会準備委員長の選任(推薦候補者高2鈴木嘉能氏)
 - 実施期日(平成2年6月)
 - 開催場所(選定中)
 - 会費(開催場所との関連で決定)
- などその方向を決定いたしましたことと存じます。
- 来年(平成2年6月)の総会(懇親会)には一人でも多くの会員のご参加を得て、楽しい会員総会にいたしたく願っております。クラス委員各位のご協力を切にお願ひ申し上げます。
- 会員の皆さんのご健康とご繁栄を祈念申し上げます。

名誉会長 馬場昌平



国際交流の発展をめざして

平成元年度に入り、学校も新しい時代を迎えたという感じがあります。今年度は新任の先生を3名迎えました。来年度は8名の先生を採用する予定です。

創立50周年を機に、新しい発展をめざした国際交流も、今年さらに新たな段階に入りました。今年の夏は、交流協定を結んでいるニュージーランドのケルストン高校との交流を中心として、ラグビー部が第4回の遠征旅行を実施しました。また、中学三年生、高校一年生42名の生徒が、今年初めてイギリスのヨークの近くにある、475年の伝統を誇る名門・ポクリントン校の国際サマーキャンプに参加しました。これはわが校にとって始めての経験であるばかりでなく、日本の学生がこれに参加したのもはじめてのことです。この他にも、ブラスバンドの生徒がアメリカ・ミ

シガン州のミュージック・キャンプに参加しました。計80数名の生徒が海外生活の経験をしたことになりました。私達はこれらの生徒が、貴重な海外生活・国際交流の経験で自分たちの中だけに留めず、広い視野に立った国際感覚をできるだけ多くの生徒が身につけるように、学校全体にひろめてくれることを望んでいます。

一口に国際的視野を身につける、国際人として成長することといっても、実は容易なことではありません。経済大国・日本が喧伝され、日本の教育が世界で一定の評価を受けているといわれますが、私達はまだまだ、学ばなければならぬ点が多々あると思います。私はこの夏、一ヶ月にわたるポクリントン校・国際サマーキャンプに生徒とともに参加し、日英生徒と一緒に暮らしたので、その感想を少し述べてみます。

日本の生徒と比べて、小さいことから独立した個人としてしっかり育てられているという感じを受けました。例えば、クリストファーという13歳の少年は、もうすでに将来、自分は科学者として、とくにバイオ・テクノロジーの分野を研究したいという目標を定めています。日本でいえば、中学二年生の生徒です。日本とイギリスの差はありますが、すべてのイギリスの生徒は将来の目標をはっきり持っており、みんなが大学に行くから自分もいくというふうなあいまいな態度では、まったく見られませんでした。また、ジュリアンという生徒は、今度のキャンプで旅行するに当って、自分でためた小遣いでは足りないのを、不足分はお父さんから借金をして参加したといっています。日本の生徒がすべて親がかえて、たっぷり小遣いをもたらして来ているのとは大きな違いでした。

総じて、イギリスの生徒は日本の生徒に比べて、一人一人の考え・意見をはっきり持っているように見えました。私達が学ばなければならぬことの一つは、この点です。私達日本人の中には、自分の意見をはっきり出さない方が美德であり、その方が有利だとする古い考えがあります。実は自分の意見を持っていないために、他人の意見にすがらう他人の後についていこうとする場合が多いことを見逃すわけにはいきません。

もう一つは、日本人はどうか、集団になると無責任となり、するすると低きに流れる傾向があります。いわゆる赤

※2面7段に続く

昭和63年度 総会 開催

昭和63年度総会は、昭和63年11月6日(日)午後1時から、母校法政一高「50周年記念会館」2Fホールにおいて開催された。

当日は、法政一高馬場昌平校長をはじめPTA会長、旧・現教諭の方々をご来賓として迎え、黒沢総務副委員長の司会で開会。議事に先立ち野村会長から、

○本日の総会には、250名の会員の方々が出席されることになっております。総会議事につきましては、皆様の審議によりましてスムーズに運営していただくようよろしくお願い申し上げます。

○我々同窓生は、学校をひとつにする大事な友人でございます。また私達卒業生は、学校の発展を願ってスマートと親睦を共にしてお互いに助け合う、こういう純粋な考えで集団を成している訳でございます。同窓会の組織強化という面からぜひスマートの会合を盛んにしていただきたいと思っております。

との挨拶があった。
○我が法政一高は、一昨年50周年を迎え、その50周年を機にいろいろな事業計画

をたてました。事業計画を推進するための実行委員会を組織し、その中には同窓会の野村会長をはじめとして皆様方にも積極的にご協力をいただきました。

ひとつは国際交流を盛んにしていくこと、それから地域の武蔵野に根を張っていく見地から、一種の市民講座のような教養文化講座を設けていこうということ

で基金も募金で3千万円集めさせていただきます。おかげ様でこれらの事業は着々と前進しております。いろいろな形で社会的にも学校をアピールするよう

に進めておりますが、教育の内容、教育の体制についても、今後さらに皆様方のご支援を得て一所懸命努力していきたくと思っております。どうぞ同窓会の皆様方、先程野村会長からお話し

がございましたように学校というのは、ただ生徒を集めて先生が教育をするという場ではございません。そういう時代は過ぎ去った

学校の姿があらうかというふうを考えております。今後ともいろんな意味でご支援を賜りますようお願い申し上げます。

からの挨拶があった。議事に入るにあたり議長団の選出が行われ、岩村元雄(高8)、鈴木勝雄(高10)、高木省介(高15)の各氏が選出された。

議事に入り各議案が提案審議され、各々が承認された(再任)より「会長をお引受けした以上ベストをつくす所

存です。皆様のご協力を得まして頑張ってくださいと思っておりますのでよろしくお願

い申し上げます。」との会長就任の挨拶があった。司会により議長団解任が告げられ第一部総会はつづがな

がれた。第二部の懇親会は、会場を1Fの大会議室に移し、鈴木

総務副委員長の司会で開催された。秋口総会準備委員長(名簿編纂委員長)から挨拶が述べられ、倉沢前会長の首頭で、同窓会の発展と、会員各位の健康を祝して乾杯。恩師、クラスメート、同期生との再会

で、欲談の輪が広がり、会場の雰囲気も盛り上がり楽しいひと時となった。最後に校歌の斉唱で第二部懇親会も終了した。

1.経過報告
大石総務委員長からつづきのとおり経過報告があった。

○昭和62年6月26日(金)に四谷の主婦会館において「委員会総会」を開催。50周年記念総会の会計報告及び昭和61年度会計報告と事業報告

を合わせて報告し、満場一致で承認を得ました。○昭和63年1月に役員会を開催。本日の同窓会総会準備のため総会準備委員長の

選任を行い、名簿編纂委員長の秋口正徳氏(高5)が選任されました。その後役員会を重ねること10回、また7月29日(金)には四谷の主婦会館で「同窓会総会」のためのクラス委員会を開催

役員懇親会が昭和63年2月6日(日)高輪プリンスホテル「高麗亭」において開催され、付風高としてのもつ幅をを広げた共催の行事等も取り入れた活動をした。旨の積極的な意見が出され和気あいあいの内に懇親会が行われました。

○法政一高硬式野球部も今年創部50周年を迎え、記念式典と「50年史」出版記念祝賀会が11月23日(土)に行われ

ます。この「50年史」は昭和13年の創部から今日に至るまでの各年代の諸先輩方が寄稿され、その苦勞話

しやら甲子園出場喜びなど100余頁にのぼる500部限定の貴重な本です。○以上昭和62年度から昭和63年度にかけての法政一高

同窓会の活動と経過について報告しましたがこれらの詳細については既に皆様のご自宅に送付しました同窓会会報第14号に掲載されて

おりますので是非一読願います。以上の経過報告について満場一致で承認された。

62年度収支決算書案(会報第14号に掲載してありますので本号では割愛いたします。)により決算報告がなされ満場一致で承認された。

4.昭和63年度事業計画
野村会長よりつづきのとおり提案説明があった。

項目については既に会報第14号に掲載されているところですがもう一度申し上げたいと思

います。(1)昭和63年度会員総会の開催
(2)会報の発刊(第14号発刊)

(3)同窓会名簿の完全販売
(4)会費徴収の促進
(5)組織の強化
(6)役員の見直し
(7)規約の見直し

等を実施していききたい。引続いて大木副会長から事業計画に沿った別紙(前記と同じ)、昭和63年度収支予算案の提案説明があった。ここに役員選挙委員会の決定事項を報告申し上げます。承認された。

※1面7団から続く
信号も「みんなで渡ればこわくない」といった態度です。これも個人としての確立が十分だからだと思

います。以上、ほんのわずかな経験に過ぎませんが、私達がこれからさらに国際社会を生きていくためには、大事な教訓が含まれて

います。別の言葉でいえば、私達の学校のモットーである「自主・自律」の精神を私達自身のやり方

で、さらに徹底していくことが必要だという感を強くしました。役員選挙委員会を設置してそこで候補者を推薦して

いただき決定して、そして本総会でご報告申し上げて役員会の決定をみたいという提案を行い当日の委員会で満場一致でご承認を戴きました。

ここに役員選挙委員会の決定事項を報告申し上げます。承認された。

- 総務 野村光一(再任)
- 副会長 大木 典(中)
- 上田三代治(高2)
- 前田賢文中(高1)
- 岩村元雄(高8)
- 大石勝康(高9)
- 奥田 蕪商(新任)
- 川城官二門
- 名簿編纂 秋口政徳(高5)
- 会計監査 田井耕作(高2)
- 桜井 勇商(高7)



同窓会総会

第4回付属高校同窓会 役員懇親会開催

広報委員長 川城官工門

平成元年2月4日(土)午後6時より、銀座ニュートールキョーにおいて法政大学付属高校(法政一高・法政二高・法政女子校・法政第一工業高)の同窓会役員の懇親会が開催されました。

今回は工業高が幹事校となり、宮本副事務局長の司会で進められ、自己紹介のあと各校同窓会の運営状況等が報告され、今後とも役員会を重ねて相互の発展のために協力していくことを申し合せました。各校の情報交換は概ねつぎのとおりです。

一高、「昨年(の)11月6日(日)開催の同窓会で役員が改選され、会長、副会長が留任となった。硬式野球部50周年記念式典が昨年の11月23日(金)に開催され盛會裡に終了した。現代教養講座も定着し地元に着した高校ということもPRしておきたい。」

二高、「本年は創立50周年に当たり出来るだけ全国的対応をとるよううにしていきたい。バレー部、アメリカンフットボール部等運動部が全国レベルの活躍をしている。オール法政の応援に感謝している。」
女子高、「社会に巣立つ若い人の組織づくりが無難しい。財政問題も10年毎の臨時会費

でなんとか凌いでいるがまたまった行事は出来ない。オール法政のテレホンカードを作った同窓会会合のときに使ったらどうか。」
工業高、「実年・熟年の懇



親会計画、趣味・同好会の年度計画、年会費の納入促進、年2回広報発行等を実施することにより開かれた同窓会をモットーにしている。」

当日の出席者
一高、大木副会長他3名
二高、元木会長他3名
女子高、近藤会長他2名
工業高、菅原会長他9名



硬式野球部創部50周年記念式典 ならびに50年史出版記念懇親会開催

198年に母校の創立50周年を迎え、続いて1989年、我が法政一高硬式野球部は創部50周年を迎えました。昭和63年11月23日(金)勤労感謝の日、母校「50周年記念会館」において「記念式典」を、「体育館」において「懇親会」を開催いたしました。時折しも昭和天皇ご病氣中のごこととて式典の規模内容を簡素に行われま

したが、当日は、ご来賓をはじめOB諸兄、現役選手を合わせ300余名にのぼる大勢の方々にご出席いただき、盛大に開催されました。
式典は吉岡武男OB会幹事(昭和25年度卒)の司会で開かれ、宇田川OB会長、馬場中学校長の挨拶につづき、ご来賓の土屋武蔵野市長、田中武蔵野市議会議長、三井法大野球部々々長、溝内法政二高硬式野球部々々長、杉村PTA・OB会代表の方々からご祝辞をいただきました。

続いて感謝状の贈呈に入り、50年の永きに亘るこの伝統を築きあげ、部の発展に貢献された方々に馬場中学校長より感謝状の贈呈があり、特に戦後部の復興に貢献されました今は亡き錦織先生・土居先生・中尾先生のお名前が呼ばれると、会場からは一段と高い拍手が起り一瞬目頭が熱くなる

のをおぼえました。
受賞者を代表して法大野球部の監督も勤められ、また、昭和35年春、36年夏の甲子園大会出場という我が野球部創始以来の偉業を成し遂げられた元監督の松永伶一氏より謝辞が述べられました。松永氏は現在、日本野球連盟技術指導委員長の要職にあり、オリビック出場選手の強化育成指導にあたられております。続いて轟木監督より部の現況報告があり、今年度は優秀な選手も大勢入りし今後の活躍が期待できるので皆様のより一層のご声援をお願いいたします。たい旨の挨拶がありました。

続いて50周年記念館に新設されたパイプオルガンの演奏が英語講師のビクター・C・セラル先生によって行われ、

曲目も各種スポーツの応援にも演奏されている勇壮な曲、ジョーリン作曲「エンターティナー」、スーザン作曲「我等の指揮者」が披露され記念式典に一層の花を添える一幕となりました。
最後に大石50周年記念実行委員長の謝辞と「50年史」発刊の挨拶があり記念式典を終了しました。

感謝状 贈呈者「芳名」
滝沢三郎元校長、安光功前校長、森田源三初代部長監督、河野清元部長、知和静男元部長、岩橋保男元部長、成沢康夫二代目監督、山脇正雄三代目監督、浅野昭三四代目監督、松永伶一元監督、轟木幸生前監督、平岩和弘現監督、倉沢豊丸OB会名誉会長、元PTA会長杉村勝蔵様、全松尾勝人様、全田中林蔵様、全松本清司様、全故、水野勉様、故、錦織重正先生、故、土居晋三郎先生、故、中尾和人先生

引続いて、「懇親会」は会場を体育館に移し、華やかな雰囲気の中植村幸利OB会幹事(昭和33年度卒)の司会で開催され、はじめに倉沢OB会名誉会長より、ご来賓の皆様、OB諸兄多数ご出席のもと記念式典が盛大裡に行われましたこと、また開催に至



昭和63年度同窓会総会決算書 (単位 円)

取 入	支 出
総会会費 8,000×241名 (前売 209名, 当日売 32名)	年会費 1,000×241名
来賓祝金 75,000	総会準備費 72,400
	印刷代(会員券) 27,700
	通信費 26,370
	会議費 18,330
	総会費 956,400
	パーティー費 678,600
	記念品(テレホンカード) 264,600
	雑 費 13,200
	繰越金 733,200
収入合計 2,003,000	支出合計 2,003,000

昭和63年11月6日 総会準備委員長 秋口正徳

るまでのご支援ご協力に対する謝辞と開会の挨拶が述べられました。
続いて、岩村PTA副会長、野村同窓会々々長の祝辞が述べられた後、錦木法大後援会々々長、大石光磨法政二高硬式野球部監督、河村法政女子高応援顧問、安藤法政一高硬式野球部父母の会々々長、黒沢法大応援団OB会顧問の諸氏による鏡開きと、小野法大校友会々々長の首頭で、法政一校硬式野球部の益々の発展と、ご列席各位のご健勝を祝して乾杯が行われました。
北は北海道から南は九州と日本全国から馳せ参じたOB

諸兄、恩師を囲み、同窓生と久しぶりに一同に会した喜び、会場のあちらこちらでグラスを片手にしばし時のたつのも忘れて歓談がかわされておりました。
楽しい時を過ごさうちに閉会の時間となり、小林OB会副会長よりまたの再会を約し、目下度々お開きの挨拶の後、松本法大応援団々々長(昭和59年度卒、甲子園出場)の力強いリードによって校歌が斉唱され、創部50周年を飾る式典と懇親会の行事がつつがなく終了いたしました。
(50周年記念実行委員長 大石勝康)

祝、創部50周年

「指導者の基本姿勢を学ぶ」

日本野球連盟技術指導委員長
元法政大学第一高等学校教諭 松永 伶一
硬式野球部監督



今から34年も前になるが、大学を卒業した若造が、高校野球を軽視したばかりに勝てる試合を落としました。昭和30年夏の準決勝で日大三高に大逆転で敗れ、勝負の厳しさと、高校野球の指導の難しさを身をもって体験したのだ。勉強と経験不足の上に腰掛けのつもりで監督を引き受けた軽率な行動に、責任の重大さを痛感した私は、苦しみの中に自らを没入していった。この一戦が一大転機となり、私の運命を大きく左右したといっても過言ではない。心と頭脳と基本技の教育を最大のテーマに、野球を通して人間づくりが指導者の義務と責任であることを確信し、私の挑戦の人生が始まった。「練習中に監督が怒って帰るのには困りました。」久し振りに教え子に会うと決まっていた話である。あの一戦以来、妥協のできない人間に

硬式野球部新監督に

平岩和弘先生就任

15年間監督として硬式野球部を指導育成され、昭和59年春夏連続甲子園出場の際、成し遂げられました藤木先生が4月1日付で部長に就任され、後任にコーチとして指導にあたられていた平岩和弘先生が監督に就任されました。若手OBもグラウンドに赴き平岩先生を盛り立て、来たるべき大会に備え練習に励んでおります。平岩先生の若いパワーにご期待ください。
秋季大会ブロック戦 優勝
第5ブロック 優勝
平成元年夏の西東京大会は、みなさまのご声援にもかかわらず、7年振りに初戦敗退という残念な成績に終わりました。しかし新チーム(1・2年生)は、初戦敗退の汚名挽回と試合終了後学校グラウンドに戻り練習を開始し、9月5日の始業式までわずか2日の練習のみしか取らず、毎日9時から練習にゲームに、また、8月猛暑の中二度にわたり延べ13日間、石岡で合宿練習を行いました。その甲斐あって東京都高校野球秋季大会ブロック戦は第5ブロックに出場、初戦・2回戦共ブロックで勝ち進み、準決勝も大勝し、決勝戦では豊南高を4対0で破りにブロック優勝を勝ち



1989年度

教養文化講座の開講に当って

校長 馬場 昌 平

間もなく、今年度の教養文化講座が開講されます。昨年度は289名(延べ372名)の受講生の方が各講座に参加されました。とくに「エッセイ教室」では、初めて文集を発行したこと、「なら・シルク」が発行されたこと、「旅行記」が発行されたこと、さらに、各講座毎に手作りの「ミニ会報」が発行されるなど、受講生相互の交流と表現・発表活動が旺盛に展開されました。秋には深沢死子さんのピアノ演奏会が、実行委員会の手によって推進され、成功を収めました。私達の教養文化講座も、ようやく自分たちの足で立ち、自分たちの足で歩き始めることができるようになりました。また、「英会話教室」は、始めての試みでしたが、延べ78名の方が熱心に参加し、楽しい雰囲気の中にも、みずから苦しさを乗り越えて、学習の喜びを獲得しました。今年度も、引き続き各講座の交流活動を盛んにして相互の親睦を計り、創造的な発表活動を旺盛に展開していきたいものです。共に手を携えて学び、創造し、表現すること、ここに私達の講座の進むべき道があります。



- 法政二高創立50周年 記念式典開催
- 兄弟校法政二校の創立50周年記念式典が1989年11月11日至二校総合会館(体育館)において開催された。
- 大越嘉七校長は、「創立50周年リーフレット」において『創立以来の50年は、戦中戦後にわたる文字通り激動の年でありました。』
- 記念の意義は、半世紀に及ぶ歴史を過去へ遡り、経脈を辿って現在に至る歴史認識本校の教育の将来への予見と展望を開くこととあります。
- 教訓と反省、見通しと希望をより広くかつ深く呼びおこし批評をも含んで豊かなものにしなければなりません。これは記念の諸事業にも貫かれなければならないことです。この見地からあらゆる諸事業は計画され、すめられていきます。と述べられ、5カ年にわたる「創立50周年記念事業」として
1. 「50年史」「卒業生名簿」の編纂、刊行
 2. 海外遠征と海外見学研修
 3. スポーツ振興基金の充実
 4. 教育環境の整備
 5. 50周年記念式典
 6. 50周年記念モノメント(彫刻)の制作
 7. 卒業生の集い
 8. 創立50周年記念事業基金募集事業
- 等の事業に取り組んでいく方針が示されました。

多くの方の参加をお待ちしております。	教養文化講座顧問 松本清張(作家) 藤原てい(作家) 舟橋尚道(法政大学教授) 光岡知足(東京大学教授) 永畑道子(教育評論家作家)
1989年度教養文化講座参加人数は289名(延べ人数372名)で、本講座開講(1989年)以来、最大の参加数となった。(延べ人数は昨年と同数)	各講座の受講生数は、次の通り、
インド美術とシルクロード	110名
古典を読む会 コーラスの会	27名
「近松」を読む 絵画教室	30名
バレエボール教室	27名
エッセイ教室	15名
英会話教室	60名
	78名
	計372名

平成元年度 クラス委員会開催

平成元年度クラス委員会は、11月15日(木)四谷の主婦会館において午後6時30分から開催された。

当日は母校法政一高から小川純一郎先生(馬場昌平校長が欠席のため代理出席)、佐々木良美事務長が出席。役員、クラス委員の出席者はつぎのとおり。(計23名)

- (敬称略)(中1) 大木(中5) 前田、亀田(中7・8) 神宮(中9) 大石、片庭、中山(商2) 上田、田中(商3) 西沢(商7) 野村、奥田(商8) 松崎(高2) 鈴木、榎原、長浜(高3)、泉、奥野(高5) 渡辺(高8) 岩村(高10) 鈴木(高14) 本田(高41) 鈴木

小川先生、佐々木事務長の自己紹介のあと野村会長の挨拶が述べられた。



大石総務委員長の司会により開会。議事に入るにあたり議長に野村会長が選出された。

野村会長挨拶要旨
○昭和63年度10月に母校法政一高において会員総会を開催し一年数ヶ月が経過しました。同窓会の運営については日頃皆様のご協力によりつぎがたく進めさせていたただいております。

○同窓会は任意の団体であり日常的な運動はなかなかむずかしく、学校の行事、同窓会の会合等の節目に盛り上り、また静かな年にな

るというくり返しで今日まで引続いてきております。○本日は、色々と審議項目がありましてで充分なご審議をお願い申し上げます。

特に平成2年度は会員総会開催の年であり、今から方向付をして前進していきたくらと思ってまいりますのでよろしくお願いたします。

○50周年を期に学校自身が地域に根差した開かれた学校づくりを目的とした教養文化講座を開設し、趣をこらした行事、各種講座には多くの方々が参加されております。またこれからの国際社会に巣立つ人材を育成するための国際交流を活発に行っております。

○今年度は定年を迎えられる先生が多く、学校の教員の構成も変わる時期にかかっております。国語科の明石先生、社会科の知和先生、英語科の山下先生が65歳の定年になられ、来年度から若手、中堅の先生方を6名迎えることとなります。

○昭和三十九年度決算案および事業報告について
はじめに田中会計監査から昭和63年度決算について、決算書と帳簿を照合した結果、適正、正確に処理されている旨の監査報告があった。

○引き続き、奥田財務委員長より別項の昭和63年度収支決算案の説明があった。

○中学卒業生の人口減に備え、また充実した教育を行って行く観点から、来年

度 中学2クラス80名を3クラス108名に、高校7クラス350名を6クラス270名にして段々と一貫教育に近づけ、よい学校づくりを目指して改革していくこととしております。

○50周年を期に学校自身が地域に根差した開かれた学校づくりを目的とした教養文化講座を開設し、趣をこらした行事、各種講座には多くの方々が参加されております。またこれからの国際社会に巣立つ人材を育成するための国際交流を活発に行っております。

○今年度は定年を迎えられる先生が多く、学校の教員の構成も変わる時期にかかっております。国語科の明石先生、社会科の知和先生、英語科の山下先生が65歳の定年になられ、来年度から若手、中堅の先生方を6名迎えることとなります。

○昭和三十九年度決算案および事業報告について
はじめに田中会計監査から昭和63年度決算について、決算書と帳簿を照合した結果、適正、正確に処理されている旨の監査報告があった。

○引き続き、奥田財務委員長より別項の昭和63年度収支決算案の説明があった。

○中学卒業生の人口減に備え、また充実した教育を行って行く観点から、来年

度 中学2クラス80名を3クラス108名に、高校7クラス350名を6クラス270名にして段々と一貫教育に近づけ、よい学校づくりを目指して改革していくこととしております。

○昭和63年11月6日(日)母校50周年記念会館で開催しました同窓会総会には24名の方々にご出席いただき大変盛況でございました。皆様方のご協力に感謝申し上げます。

○同年11月23日(金)には法政一高硬式野球部創部50周年記念式典および硬式野球部50年史出版祝賀会が行われました。

○当日は同窓会役員、土屋武蔵野市長はじめ多くのご来賓の方々のご臨席を賜わり、また日本全国から大勢のOBが馳せ参じ総勢184名の華やかな式典となりました。50年史の刊行については昭和63年12月4日(日)の朝日新聞にも掲載されました。

○例年行われております法政大学付属校の同窓会役員懇親会が平成元年2月4日(日)開催いたしました。

○また今年度は兄弟校の法政二高の創立50周年記念式典が11月11日(土)盛大に行われるなど、まさにこの4、5年は法政大学付属校の50周年記念式典オンパレードといたるところでございまして、これらの諸行事が成功裡に終了いたしましたのもOB諸兄でありましたこと、ご支援ご協力の賜もご心から厚くお礼申し上げます。

○以上ご提案に満場一致で承認された。

○予算案について野村会長よりつぎのとおり提案説明があった。

平成元年度事業計画および予算案について野村会長よりつぎのとおり提案説明があった。

平成元年度は現在進行中ですが事業としてはつぎのとおり実施してまいります。

- (1) クラス委員会の開催
- 2年に1回の会員総会開催の間に行われ、総会につき決議機関であります。
- (2) 会報の発行(第15号)
- (3) 会員総会の開催
- (4) 法政大学付属高校同窓会役員懇親会の開催(幹事校法政一高)

引続いて、奥田財務委員長から事業計画に沿った別項の平成元年度収支予算案の提案説明があった。

以上の提案に対し満場一致で承認された。

平成2年度「会員総会」開催準備について野村会長からつぎのとおり提案説明があった。

「会員総会実施要領」
○日時
平成2年6月10日(日)午前11時
○会場
新宿駅西口「小田急ビル本館14F」『バルーン』(ニュートキーヨー経営)
○会費
1万円

総会準備委員長は、規約の通り現総務副委員長である高松2期鈴木嘉能氏をご推薦

以上ご提案に満場一致で承認された。

引続いて鈴木準備委員長から挨拶と総会開催にあたり協力要請があった。

4. 役員改選について野村会長からつぎのとおり提案説明があった。

○平成2年度は役員改選の年であり規約第5条により進めていきたい。

○手順としては役員選考委員会を設置。そこで役員候補者を選出し、そしてつぎ

の委員会で皆さんのご意見を賜って承認をいただきこの結果を会員総会で披露しご承認を賜わるといこととなります。

○選考委員会の編成は、従来から会長を含め、副委員長、副委員長等の方々によって役員選考を行っていただくことになり、以上の提案に対し満場一致で承認された。

○平成2年度は役員改選の年であり規約第5条により進めていきたい。

○手順としては役員選考委員会を設置。そこで役員候補者を選出し、そしてつぎ

の委員会で皆さんのご意見を賜って承認をいただきこの結果を会員総会で披露しご承認を賜わるといこととなります。

○選考委員会の編成は、従来から会長を含め、副委員長、副委員長等の方々によって役員選考を行っていただくことになり、以上の提案に対し満場一致で承認された。

○平成2年度は役員改選の年であり規約第5条により進めていきたい。

○手順としては役員選考委員会を設置。そこで役員候補者を選出し、そしてつぎ

＜お知らせ＞

平成2年度「法政一高同窓会総会」を下記の要領にて、開催いたします。会員各位のご協力とご出席をお願い申し上げます。

記

1. 日時 平成2年6月10日(日) 午前11時開会
2. 場所 新宿駅西口「小田急ビル本館14F」『バルーン』(ニュートキーヨー経営) ☎03-343-4884
3. 会費 10,000円
4. 振込先 郵便振込 「東京 7-76931」 「法政大学第一高等学校同窓会」
必ず卒業年度と氏名を記入して下さい。
5. 会員券 クラス委員を通じて皆様に発送します。出席される方は会費を上記「4」により振込んでいただき同窓会当日、「振込領収書」を持参願います。
6. クラス委員 クラス委員が不明または交替している場合には同窓会事務局(法政一高内 ☎0422-22-8131) までご連絡願います。

昭和63年度収支決算書(案)

(S63.4.1~H1.3.31)

法政大学第一高等学校同窓会

財務報告

副会長 大木 興

昭和63年11月6日(日)の同窓会総会は、秋口準備委員長の

もとに開催され盛會裡に終了

決算面においては、会員各位の当日の年会費納入により、繰越金を食いつくすことになり、同窓会としては平成元年に多額の会員が出席され、同窓

会の維持発展の基盤となる年会費の納入につき絶大なご協力をお願いいたします。

(財務担当)



収 入 の 部					
款	項	予算額	決算額	差 異	備 考
繰越金		2,195,481	2,195,481	0	
会 費		1,449,000	3,209,000	△ 1,760,000	
(イ)	入 会 費	726,000	726,000	0	@2,000×363
(ロ)	一 般 会 費	363,000	363,000	0	@1,000×363
(ハ)	年 会 費	300,000	656,000	△ 356,000	
(ニ)	その他会費	60,000	1,464,000	△ 1,404,000	
(ホ)	雑 収 入	50,000	186,995	△ 136,995	
繰入金		2,100,000		2,100,000	
	繰 入 金	2,100,000		2,100,000	
	計	5,794,481	5,591,475	203,005	

支 出 の 部					
款	項	予算額	決算額	差 異	備 考
経常費		1,170,000	915,102	254,898	
	学校協力費	210,000	198,450	11,550	
	会 議 費	400,000	289,062	110,938	
	組織活動費	10,000	0	10,000	
	印 刷 費	120,000	21,300	98,700	
	通 信 費	50,000	45,070	4,930	
	人 件 費	345,000	345,000	0	
	事務用品費	1,500	0	15,000	
	雑 費	20,000	16,220	3,780	
事業費		2,700,000	2,021,238	678,762	
	会報発行費	1,200,000	1,027,938	172,062	
	総 会 費	1,500,000	993,300	506,700	
予備費		100,000	190,400	△ 90,400	
	予 備 費	100,000	190,400	△ 90,400	
小 計		3,970,000	3,126,740	843,260	
次年度繰越金		1,824,481	2,464,736	△ 640,255	
合 計		5,794,481	5,591,476	203,005	

平成元年度収支予算書(案)

(H1.4.1 ~ 2.3.31)

法政大学第一高等学校同窓会

収 入 の 部					
款	項	予算額	内 訳		
繰越金		2,464,736			
会 費		1,222,000			
(イ)	入 会 費	688,000	(イ) 新卒業生入会金	344名×@2,000	
(ロ)	一 般 会 費	344,000	(ロ) 新卒業生年会費	344名×@1,000	
(ハ)	年 会 費	100,000	(ハ) 会員口数年会費	100口×@1,000	
(ニ)	その他会費	90,000	(ニ) 会議開催時出席者負担金	30名×@3,000	
雑 収 入		30,000	利息、その他		
繰入金		0			
	繰 入 金	0			
	計	3,716,736			

支 出 の 部					
款	項	予算額	内 訳		
経常費		745,000			
(イ)	学校協力費	180,000	(イ) 学校主催行事、生徒部活動等		
(ロ)	会 議 費	100,000	(ロ) 委員総会、役員会、各委員会、会計監査等		
(ハ)	組織活動費	0	(ハ) 同窓会の組織強化整備に関わるもの		
(ニ)	印 刷 費	50,000	(ニ) 決算、予算、一般会議資料の印刷費		
(ホ)	通 信 費	50,000	(ホ) 会議開催通知、資料送付等		
(ハ)	人 件 費	345,000	(ハ) 事務局員謝礼		
(ト)	事務用品費	0	(ト) 事務用品等		
(チ)	雑 費	20,000	(チ) 慶弔費及び振込手数料等		
事業費		1,140,000			
(イ)	会報発行費	1,050,000	(イ) 定期発行一回分を見込む		
(ロ)	総 会 費	90,000	(ロ) 委員総会同窓会負担分	30名×@3,000	
予備費		50,000			
	予 備 費	50,000			
小 計		1,935,000			
次年度繰越金		1,781,736			
合 計		3,716,736			

おじんのクラス会

新井 幸雄 (高9期)

平成元年9月9日、新宿で9期2組(昭和32年卒)のクラス会を開催しましたので御披露させていただきます。

私達の恩師、立花先生は昨年オーストラリア(シドニー)に永住されたため、今回は我々クラス員と、在学中、運動部等で立花先生と係わりのあったクラス以外の同窓も呼びました。

一高を卒業して32年にもなるので、消息の分らない人も多く、また、仕事でやむなく当日欠席された方もあり、結局16名のクラス会になりました。

普段は自営業主であり、会社の幹部である人も、なかなかの旧友の出逢いから、笑顔で30年前のことが昨日のこの様に記憶が甦ってくる。

頭には白いものが目立つ様になったが、順番に廻る個人スピーチは、仕事のこと、家庭の話、趣味等々であるが、仲間なんだから何でも言える。という明るい雰囲気は何とすばらしいことだらう。

とても1次会だけでは物足りず、全員2次会に向いたが、60になっても70になっても、生きている限りこのクラス会は続けよう。と全員からコールされた時は、改めて

「賀会」だより

中村 重吉 (商業1期)

「友達は人生のかけがえのない財産である」ことを思い知らされました。

近い将来シドニーでクラス会をしたい、と言う意見も出されましたが、何年たってもこの様に強い絆で結ばれていて私達は、その実現も決して夢ではないと思っています。

吉祥寺も最近はずっかり武蔵野の面影が薄いききました。法政一高の良き校風は、昔も今も不変のこと、思いま

後輩の皆様も、友は人生最大の財産とみつめ、私達の年齢になっても、またそれ以上になっても、おじんのクラス会が出来ます様望んでいます。

先般の創立50周年記念総会の席上、馬場校長先生が挨拶の中で触れられました。商業1〜3期の有志により、毎年6月第1日曜日に恩師有賀定三先生の追悼会を開催致しております。今回鎌倉瑞泉寺ご住職のご好意により、本堂に保管中の遺骨が万霊塔(仏心塔)に納骨されることとなり

直ちに谷を拓いた広大な墓地の奥手、左側の崖に懸る新たな万霊塔へご住職自からご先導を頂き(途上、全員が交替でご遺骨を捧持しつづ)石工職の方により蓋碑が閉ざ

れ、無事納骨、更に御自から墓前のご読経を蒙るご懇篤なものでした。

それより以前、本堂とこの墓前に於て「縁あって先代の豊道和尚以来、永年ご遺骨をお預りしてきた」この度万霊塔が出来、納骨が出来ることとなった。「皆様もこれで」と安心なされたことであらう。「本日間に合わなかったが近々右の板碑にご戒名を刻み込む予定である」

「この後は、ご法要以外の時でもこちらへお出掛けの時はいつでもご自由にお参りが頂けましょう」等々の懇ろなご挨拶を頂きました。一同期せずして心から「有難うございました。」と御礼申し上げます。

聞くところによりますと、今回の万霊塔への納骨に関しお伺いを致しましたところ、何等金銭的なご要望を頂かなかった由で、現今の風潮の中にあつて、従前からの重ねねの異例な臨済法思の廉潔な在りようと、深いお心遣いが感じられたこと、また現に目の前で手を離れ、やぐらの扉：蓋碑の中に納められたお骨と別れた淋しさが急に胸に迫り、本堂に涙声で皆さんに「本堂に有難いことだよ」と念を押させて頂きました。

願ひて有賀先生ご夫妻は、



(1988年3月5日 新宿・東京大飯店にて)

学校だより

ラグビー・フットボール部 顧問 今村 忠義

昭和57年夏、先輩諸兄のお力添えで実現したニュージランド、オーストラリアへの海外遠征が今回で第4回目を迎え平成元年7月24日より8月7日まで実施されました。役員4名、明石団長、永田マネージャー、今村監督、アシスタント・スタッフ豊田の諸先生と選手42名の編成で行われました。

お子さんに恵まれず戦後のインフレーション、物質不足、各般の混乱した高齢者の福祉、私立校員年金等の未分たのき、「生存の意義を失い」と自決されました。そして奥様もまた、直ちに後を追われ「怨むものもなく、いざごる事もなく」空に帰されました。が私は、先生のご経歴より推測し、若し戦争なかりせば、と先生も戦争の犠牲によるものと痛恨の極みです。

幸い鈴木兄、外の各位による年々の追善は、考えてみると恐らくご嗣子があった場合でも一般に有り得ないことであり、これ偏にわれわれ不敏の弟子に伝えられた先生の人徳の然らしむところと改めて自得したところかと思われ

終つて客殿に戻り、恒例の銘菓とお薄のご接待を頂き、また原太郎君が忍ばせてきた銀器携帯用ポケットボトルのパーボンウイスキーの芳香を僅かに舌にのせ、各種の話題は尽きませんでした。そして午後3時40分お礼を申し上げて山門を下り駅に向

外遠征が今回で第4回目を迎え平成元年7月24日より8月7日まで実施されました。役員4名、明石団長、永田マネージャー、今村監督、アシスタント・スタッフ豊田の諸先生と選手42名の編成で行われました。

オーストラリアでは現役のワラビーズ(オーストラリア代表選手)の2名にコーチを受け今まで経験したことのない練習方法を習いました。またニュージランドでは、交流校であるケルストン高校との試合や、元オールブラックスの選手からコーチを受けるなど、新しい練習方法と技術の習得に励んでまいりました。

春季大会では本郷高に敗れ都ベスト8に残ることができませんでしたが全国大会予選では頑張りたいと思っております。

中学ラグビー部は53名の部員が集まり、秋季大会では国学院久我山中学、駒場東邦中学に勝ち関東大会への出場を明大中野中学と競うことになりました。

末筆になりましたが、高校遠征に際し、ご支援ご協力いただきましたOB諸兄と諸先輩に心より感謝申し上げます。

ファンシング部 顧問 山上 英男

OBの皆さんに近況をお知らせします。近況といって、昔

全国大会をはじめ関東大会などへ連続して出場していたころの面影は、すっかりなくなつてしまつているので、少々、はずかしい思いです。

現在6名の部員で、まだ公式戦で勝つという経験はもってはいませんが、それでも、他校へ出かけて練習するなど、まじめな部員たちで、和気あいあい、雰囲気の良い部ではあります。

幸い、昭和38年度卒の照川さんが、現在、本校のPTA役員であり、しかも法大ファンシング部の副監督ということもあり、時々みてもらっています。

日常の技術指導は、昭和61年度卒の柏崎君が、現在大学生であるという条件を生かしてみてくれています。

最近、昭和39年度卒の萩原岸のお二人が訪問して下さい、生徒たちと剣をまじえて下さったのは感激でした。

OBの皆さんの卒業してからの喜びは、出身校が立派になっていくこと、そして自分の所属したクラブが健在で、活躍してくれることだろうと思ひます。

今の部員たちの、部を大切にしようとしている気持ち、皆さんの期待に添ひたいと思ひますので、お暇な折には顔を出して下さい。

OBの皆さんに近況をお知らせします。近況といって、昔

法政一中高小史5

一中・高は決して無風状態ではなかったのだが、その頃にはさらに新しい風を必要としていた。46年には二つの事件が起こった。一つは越田信行(高一)の自殺であり、今ひとつは服装の自由化であった。前者については、きめ細かい教育の配慮が必要であることが痛感され、落ちこぼしのない教育がこれを機にして重視されるに至った。

服装の自由化は生徒側から出された要望であり、これをめぐって教師と父母と生徒の三者の懇談会が約半年にわたって慎重に続けられ、話し合いの結果、生徒の主張をほぼ認めることに決めた。

「明日から服装の自由化が現実のものとなる。生徒諸君の多年にわたる願望が、ようやく陽の目をみるに至ったわけであるが、これを機会に諸君はいろいろ自主的自律的人間としての自覚にめざめ、よい学園生活のために頑張っていたらだいたいと思う。」

服装の自由化は言ってみれば制服の任意着用という一つの形式上の変更ではあるが、わが校35年の歴史において、それはかつてなかったくらいの大きな出来事として受けとめられなければならない。なぜなら「服装の自由化」には諸君の自律性・自主性が高らかにうたわれており、諸君のみ

ならず、家庭・学校にかかわる、すぐれた教育的な問題がそこに投げかけられているからである。

われわれは諸君の自主的精神的源泉である、人間の自由権が、各人の責任において正当に行使されるべきであることを諒承した。また、諸君が単に服装の自由化だけに精神の躍動を停滞させることなく、人間性のより深い探求にたえず努力していくことをこの機会に重ねて要望したい。(服装の自由化に当たって生徒諸君に訴える) また、学校から父母宛には「学校としても慎重に討議を重ね、自由にして責任に富む」人物の育成という教育方針に沿うものであるという結論に到達した結果、採られたものであります。……という文書を出した。生徒会から出された父母宛の文書は次のようなものである。「まず最初に私たちが服装の自由化をたんにそれ自体孤立した個別の要求としてではなく、「権利」に對する「責任」という私たちの基本線を全生徒のものにしていくという運動の中の一つとして位置づけました。……この機会に今までの「PTA」という「父母と教師」の関係をさらに進め、新たに生徒をふくめた三者の話し合いの場を各クラスなどに設けた

いと思うのです。この三者懇談会は、服装の問題のみに止まらず、教育問題や学校生活の問題点などにも内容を広げ、三者の協力によって解決していこうという展望も含まれています。」さらに生徒委員会は学友に次のような訴えを出した。

「私たちは、全校生徒の一致した団結が、学校とその生活をよりよく変え得ることを身で以て知ることができた。この服装の自由化を契機に、私たちが内から変わるべき時がきたのだと言える。無気力や無関心であってはなるまい。……私たちの行動は、「自主性・権利意識に富んだ生徒会づくり、民主的学園づくり」という展望につながるものでなければならぬ。……」

昭和9月11日、生徒会中央執行委員会

風はPTAの中からも起こった。公費助成の運動がもっとも灼熱したときがこのあたりであった。公費助成の運動は父母と教師とのあえかな間隙にかつてなかつた教育のぬくもりを感じさせた。教師の側からは、父母の要望に応えられるゆき届いた教育の必要を、父母の側からはPTAの民主化が痛感されたのであった。(つづく)

平成元年度入学者状況

中学校 合格者・入学者数								
募集人員	志願者	受験者	(欠席者)	合格者	手続完了者	登校者	入学者	
80	806	751	55	151	88	85	85	

高等学校 合格者・入学者数								
推薦	募集人員	志願者	受験者	(欠席者)	合格者	手続完了者	登校者数	入学者数
	120	598	596	(2)	210	197	192	192
一般	150	674	648	(26)	153	90	85	85
計	270	1,272	1,244	(28)	363	287	277	277
法一中	80	79			79		79	79
合計	350	1,351			442			355

平成元年度進路状況

中学校		
法政一高	79	卒業生計 84
その他の高校 5		

高等学校			
卒業生総数	進路内訳		%
361	法政大学 1部推薦	285	78.9
	法政大学 2部推薦	36	10.0
	他大学	5	1.4
	各種学校、専修学校	4	1.1
	その他(就職・浪人)	31	8.6

法政大学1部への推薦内訳					
法政	42	53	経経	57	37
	11		経営	57	
文哲	3	23	社応	22	
	6		社	15	
	5				
	4				
	5				
			工機	16	58
			電	13	
			計	7	
			土	8	
			建	7	
			営	7	
			合計	2	8 5

編集後記

波乱の年、平成元年度が明け早や3月となりました。気候もすっかり春めき私達の身体にも躍動感が伝ってくる今日此頃です。同窓生の皆様にはご健勝にてご活躍のことと思います。▼会報第15号をお届けします。定期刊行日から大幅に遅れましたこととお詫び申し上げます。▼クラス委員会における小川先生の母校近況報告が印象的でした。学生数減少に対するための学級の再編成・生徒の質を高めるための教育内容の充実等まさに企業の生き残り策と同様の厳しさを感じます。母校の発展なくして同窓会の発展はあり得ません。母校と同窓会の絆を日常的にいかに強めていこうか今後の課題ではないでしょうか。▼定年をお迎えになられた先方には現役の学生は勿論、同窓生一同大変お世話になりました。人生80年時代、あらたな目標に向かってわけてスタートされていることと思えます。益々のご健勝とご活躍を祈念いたします。▼来る6月10日(日)の総会には多数の方々のご出席をお願いいたします。▼OBの方々から記事の提供を受けました。ご協力に感謝いたします。▼皆様の会報です。ご意見記事等をご送付下さい。▼

※送り先 法政一高同窓会事務局又は〒168杉並区下高井戸5-7-22 川城官二門宛